

群生地を舞台に！
第5回クリンソウまつり開催

6月20日、上里の町民の森自然公園内で、クリンソウの群生地を舞台に、第5回クリンソウまつり（津別観光協会主催）が開催されました。

公園内のピンク色に咲いたクリンソウはほぼ満開で、駐車場に入り切れないほど、町内外から多くの家族連れが群生地を訪れ、遊歩道からクリンソウを眺めたり、カメラに収めたりしていました。

「ランプの宿 森つべつ」のホテル前にはミニ屋台が出店し、ホテル内の中庭では、野外ミニコンサートが開かれ、入浴サービス付きのランチバイキングでお腹もいっぱい！

来場者は、津別町の観光、花として定着したクリンソウを満喫しました。



特大の交通安全旗！
津別町建設業協会より寄贈を受ける



5月26日、建設産業交通安全推進網走本部・美幌支部、津別町建設業協会（中田武会長）の蓮井和二事業部長から交通安全運動の啓発に使ってほしいと、佐藤多一町長に縦90cm、横5mの特大の交通安全旗の寄贈がありました。

「交通安全」の大きな文字と死亡交通事故ゼロ日運動目標300日やヘルメットをかぶった鹿のイラストが書かれています。

町長は「残念ながら3月23日、木樋の道々で死亡事故が発生しました。気持ちを新たに300日を目標に運動を推進する上で、心強く感謝します」とお礼を述べました。

交通安全旗は、交通安全運動の街頭啓発などに使用されます。

JA共済連北海道より
交通安全指導車の寄贈を受ける

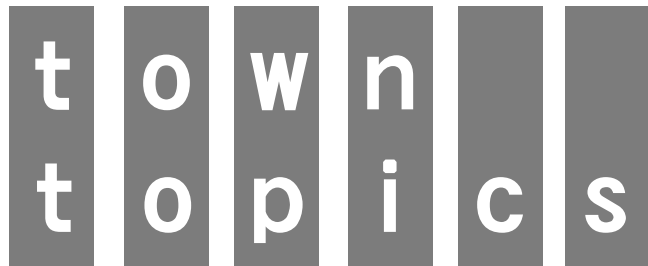
5月20日、全国共済農業協同組合連合会北海道本部（JA共済連北海道）の関係者が町長室を訪れ、交通安全指導車1台、チャイルドシート2組の目録が、津別町農業協同組合山下 邦昭組合長から佐藤 正敏副町長へ渡されました。

今回の寄贈は、JA共済連北海道が行う数多くの社会貢献活動の1つで、交通安全資機材を地方公共団体に寄贈しています。

副町長は「一昨年は、救急車を寄贈いただきました。今年は、交通安全指導車などを寄贈いただき感謝申し上げます。交通安全の啓蒙に有意義に使いたい」とお礼を述べました。



交通安全の啓蒙に有意義に使いたい」とお礼を述べました。



まちのわだい

新緑の森の中を歩く
ふれあい歩こう会が行われました

5月23日、教育委員会社会教育課主催の「ふれあい歩こう会」が28名の参加で行われました。

中央公民館から上里の「ランプの宿 森つべつ」にバスで移動し、ホテル向いの国有林の山中にある「ミズナラの巨木（通称ポロペロの木）」を目指し、片道40分程度の新緑の森をゆつくり歩いて、ミズナラの巨木の前で、カメラ撮影が行われました。

正午頃にはホテルに帰り、昼食を取り、温泉に入浴し気分そう快。



参加者は「緑豊かな時や、秋の紅葉の時期も美しい」と話されていました。



6月18日、津別町字双葉の網走大地と海をつなぐ植樹
豊かな自然を未来に残します

川河川敷で「第5回大地と海をつなぐ植樹」が、網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合の主催で、関係者が用意された広葉樹250本の植樹を行いました。

植樹活動は「自然環境の保全と回復に努め、豊かな自然を未来に残すことの大切さと海と山に関わる人たちの共存と共生」を目的として行われています。

地元自治体を代表して挨拶した佐藤多一町長は「網走川上流域のまちとして、植樹された木を大事に守り続けたい」と述べました。



永年の研究を人々に伝えたい
大野晃先生が本を出版

長野大環境ソーリズム学部教授で平成6年から町内に居を構える大野晃先生が沖縄県、高知県、長野県、北海道の農山村漁村を永年調査研究してきた成果をまとめた「山・川・海の環境社会学」の出版を記念して、6月5日、林業研修会館で出版記念講演会が行われました。



この著書には、条件不利地域農業と地域再生の主体形成をテーマに津別町の取り組みが紹介されていることから講演には多くの人々が集まりました。

大野先生の講演では、山・川・海の関連性大切さや限界集落の増加等に参加した方々に伝えました。

5月15、16日に三笠市で行われた第32回北海道小学生ソフトテニス選手権大会で寺田 日菜さんと佐藤 瑠央さんのペアが3位に入賞し、全国大会への切符を獲得しました。

また、5月25日に町長室を訪れ、大会の報告と全国大会への抱負を述べました。

大会を振り返り「全道大会では簡単なミスをしてしまいました。初めての全道大会ではミスの少ないプレーをし、まずは1勝したい」と意気込みを語ってくれました。

佐藤多一町長は「全国に出られなかった人の分まで頑張ってほしい」と激励の言葉を2人に贈りました。



積み上げてきた努力が形に
佐藤・寺尾ペアが3位入賞！

子供たちに地元の味を届ける
津別産和牛肉の寄贈を受ける



6月3日、津別町牛肉振興会（迫田 和男会長）が教育長室を訪れ、阿部 博道教育長へ地元津別産和牛肉40kgの目録が贈られました。

寄贈された和牛肉は給食センターで調理され、子供たちを対象に食農教育を中心とする教育実践活動を通じ、子供の農業に対する理解を深め、農業ファンを拡大することにも、地域の発展に貢献することや地元の食材をあまり食べない子供たちに味を知ってもらうことを目的としています。

和牛肉は6月10日の給食に出されました。